

第5回帯広市総合計画策定審議会 第1専門部会 議事概要

1. 日 時 平成20年6月2日(月) 15:30~18:00

2. 場 所 市役所5階フロアー会議室

3. 議事概要

(1) 人口について

【部会長】

人口については、以前に当部会で議論している。長期的な視点では少子化が問題になるが、ここ5・6年は人口流出が特徴的な現象となっている。

第2期総合計画以降の推定目標人口は、実態人口と大きな乖離があったが、そこは、シビアな捉え方をする必要があったというのが、以前の議論の中にあった。

【委員】

改めて人口問題を考えるときに、帯広市から周辺3町への移動と帯広・十勝から管外への流出を分けて考える必要がある。

周辺3町への移動は、宅地開発等の問題もあると思うが、帯広市が十勝の核になる都市と考えるならば、大きな問題とは捉えていない。むしろ、大きな問題と捉える必要があるのは、帯広・十勝から管外へ恒常的に人口が流出していることだ。

管外への流出については、働く場が無いことが要因だ。人口が減ったということも問題だが、如何にして地元の産業を魅力あるものに育てるのか、魅力ある職場をつくって行くのか、ということと併せて人口問題を捉える必要がある。

副次的には企業の誘致も従前同様必要となるが、他の地域との差別化が必要であり、食の安全などを切り口に地元産業を魅力あるものにし、そこに人を呼び込むということが必要だ。加えて、全く新しい産業を造り出すのは非常に難しい。しかし、観光は新たな産業となり得る。地元の人が気付いていない、十分に活用しきれていない観光資源がまだまだあると聞く。こうした資源を掘り起こし、組み合わせることで交流人口の増加につなげてゆく必要がある。

こうした取り組みを進める事で、人口減少のペースを全国平均より緩やかにすることは十分可能である。

【部会長】

議論の進め方ですが、人口問題全体について議論する方法が効率が良い、論点に

沿ってではなく全体で議論を進めたい。

【委員】

データから40代以降の流出は少ない、流出が多い20・30代という子育て世代が、この街に魅力を感じ、不便さを感じさせないという施策が重要。

十勝においては、帯広は人口が減少しても他の町村に比べて圧倒的に人口が多い、そういう意味では、十勝管内の中心都市としてやれることがあるのではないかと？

また、20・30代を引き付けるような働く場所、住む所を創出し、バランスの良い人口構成にすることが重要だ。

【委員】

働きたくても働く場所がないのか、それとも、働きたい場所がないのかで、施策は異なってくる、労働人口に対する需要がどれくらいなのか判断する必要がある。

また、今後、定年年齢の65歳への延長が出てくる。この対策をしっかりと進め、60歳代の流出を食い止める必要がある。

帯広市の生き残り策としては、定住人口対策に加え、交流人口対策を横断的に進めることが重要である。

【委員】

人口減少は、単に帯広だけの問題ではなく、日本全体で起きている問題だ。その意味では、10年後16万人ということもあるかもしれない。

帯広について言えば、働く場所がないということが要因である。景気が悪く土建業、運送業など本州方面に出稼ぎに行き戻って来ないという話をよく聞く。

自然減はある意味仕方ない面もあるが、そのままではいけない。

外から人を連れてくることが大事である。それが出来るならば活気のある街づくりができると思う。

【委員】

人口減少という現実を、重要な問題として真剣に受け入れる必要がある。

人口減少の影響は、労働人口の減少、それによるサービスの低下、購買意欲の低下、消費の低下、経済の停滞などが起こるのではないかと。

富山市では、人口減少による人口密度の低下が、上下水道、除雪、道路など行政サービスコストの増加に結びつくとして、行政が課題認識している。

総合計画における人口は、現状認識をしっかりとした上で、下からの積み上げで捉える必要がある。その上で、目標的な人口を設定するべきではないかと考える。それにより、施策がしっかりと位置づけられてくる。

また、都心部の魅力づくりにより交流人口を増加させることが重要だ。その交流

は、市内だけでも効果があるが、管内で広域的な連携をしてゆくべきだ。
交流人口の増加が、移住や定住を促進し、更に企業誘致が促進される。

【委員】

人口が減少する実態に合った総合計画の策定が必要である。

自然減はなかなか止めようがないが、社会減をくい止める施策を総合計画に織り込んで行く必要がある。

コンパクトシティということで、中心市街地の活性化をしており、郊外での大型店舗の規制をしている。居住地域に大型店舗があることに魅力を感じる人もいる。その人たちの一部が周辺3町に流出しているのではないか。

定住人口が減少するなかで、交流人口を増やすことは重要である。高速道路の開通により、札幌圏から日帰りできるようになり、メーカーなどの支店は札幌圏への集約が予想されるが、逆に札幌圏が近くなることで、300万人のマーケットを帯広に取り込むための魅力づくり・街づくりが重要になってくる。

交流人口の増加の先に、移住・定住を目指すが良い。

【部会長】

帯広市のホームページでは、移住のページがあるが、何度もクリックしないと欲しい情報にたどり着けない。利用者の視点で考え、これからどのような対応をしてもらえるのか簡単に分かる必要がある。本気でやるなら、こういうところから直して行くべきだ。

【委員】

市街地に十勝の物産やお土産を扱う大型店があれば、通過型の観光客を足止めできる。藤丸の地下や、空港に物産店はあるが、もっと観光客にアピールできるものが必要だ。

子供が大きくなって、大学進学時に帯広から出て行くが、専門的知識を身に付けて卒業するが、帯広に戻りたくても、それに見合うだけの働く場所がない。

食料品やお土産だけでなく身近に何でも手に入る場所があることが市内から人を出さない方法につながるのではないか。

【委員】

私は富士町に住んでいる。小さい頃は地域に小学校があったが、今は統合されない。人口が減少することは、地域が崩壊することだと実感している。

地域内に民間開発の宅地があり、住んでいる人は、街に近く、自然環境に恵まれていると言っているが、他に同様な宅地は市内には無いという。農村部では、5人・10人の集落でも地域のコミュニティが維持できる。農村部の人口対策についても、

総合計画に織り込んで頂きたい。

【委員】

私の知り合いで富士町近辺に入った人がいるが、川西周辺で新規就農することは、難しいのですか。

【委員】

大規模畑作としての新規就農は規模的に難しいと思う。都市近郊で野菜などの集約的なものであれば可能だと思う。

【委員】

職を探していた若者が、札幌圏へ移動してしまったという話を聞いたことがある。雇用を生み出す産業の育成が重要だ。

東京から訪れた友人を帯広市内だけで案内するということは非常に難しい。やはり広域的な十勝圏として考えてゆく必要がある。

大学で、高度な専門知識を身に付けて卒業しても、帯広にはそれに見合う就職先がない、それに見合う産業・企業づくりが重要だ。

【部会長】

どうして、子供を生まないのか、これだけ環境が良いのに子供を生まないのはなぜなのか？

【委員】

子供を生まないのではなく、まず結婚しなくなったことが原因ではないか。子供が大きくなって、大学進学で管外に出て行くが、誰も戻ってこない。

【委員】

戻って来ない子供たちの何人かは、帯広に戻りたいという意思があると思う。そこを、どうするかだと思う。

【委員】

帯広には食文化があるというが、特定の店の豚丼とジンギスカンになってしまう。裾野の広がりが弱い。宣伝が悪いのでしょうか。

【委員】

連携が不十分と考えられる。食文化を代表するものは、たくさんあるが、単体でのPRになってしまい宣伝力が弱い。

【委員】

屋台村が成功できたのも、単体でなく複数の店舗が集まって連携したからだと思う。

【部会長】

人口問題については、一通り議論がされたと思います。人口は土地利用にも関係する部分があるので、人口は一端終了して、次に、土地利用について議論を進めて行きたい。

(2) 土地利用について

【部会長】

土地利用についても、当専門部会でも議論をしてきたわけですが、今までの議論も踏まえて議論を進めて行きたいと思います。

【委員】

先程の人口減少を考えてゆくと、行政コストの削減、土地利用の効率化という点が重要になってくる。

コンパクトシティという話もあるが、行政コストの削減という点ではコンパクトということは重要だ。ただ、先程発言があったが、周辺部に住む人の利便性も考慮する必要があるが、コンパクトという方向性は正しいと思う。

都市機能の点では、全ての施設を中心市街地に設置するのではなく、機能的に郊外にあったほうが良い施設もあるので、施設設置の住み分けが重要になってくる。

当然必要な施設は設置してゆくが、効率的な設置が必要であるし、既存施設の有効活用も重要な視点になってくる。

【部会長】

以前頂いた資料ではどの都市においても、住宅地、工業地などに求められる機能はさほど変わらない。時代の流れの中で、コンパクトシティの様な切り口が出てきたということだと思う。

【委員】

帯広の土地がなぜ周辺 3 町より高価なのか、それは、帯広市内の土地が有限だからではないか。サラリーマンが 3 0 代で土地建物を新築で購入することは難しい状況だ。空いている土地を有効に活用する土地政策が重要になってくる。

新しい施設を建てるのではなく、既存施設の有効利用を図って行く必要がある。

【委員】

交流人口との関連で、JICA施設、スピードスケート場などの連携による交流の促進や、統廃合後の小学校跡地を活用した簡易宿舎等の活用ができないものか。

【委員】

学校の空き教室の有効活用など既存施設の有効活用を考えるべき。周辺3町で新たな宅地造成の話があるが、帯広市の宅地価格を周辺3町レベルにするのは難しい。

子育て世代の30代の人たちに坪10万以上の土地を購入して住宅を建てると言っても厳しい話だ。

中心市街地にお年寄りから若者まで交流できる都会の東屋のようなものが必要ではないか。また、市内に道の駅のようなものはできないものか。そこで、市内の農産物や物産を販売してはどうか。

高速道路や高規格道路と連携した施設が必要ではないか。

【委員】

特産物の販売所については考えてゆく必要がある。ファーマーズマーケットのような施設は市内も含め管内に多くあり、機能としては道の駅に準じた機能は既にある。しかし、道の駅ほどインパクトが無いのも事実だ。

ファーマーズマーケットを連携して、買ったものをその場で調理して食べられる沖縄の公設市場のようなものが出来ないだろうか。

高速道路の開通により、300万人の札幌商圏を帯広に誘引することが重要であり、そのためには、土地政策、人口対策によって帯広の魅力づくりが重要になってくる。

最近視察した、富山市でも、新幹線開通に伴うストロー現象対策の一つとして、コンパクトシティを目指しているが、帯広との違いは、人口対策、土地政策の順番をはっきりさせて住民に説明し理解してもらっている点だ。

ちなみに、中心市街地にアパートを建設すると100万円、新築住宅では50万円の補助を出している。中止市街地の人口密度が目標に達したときに終了し、次の幹線沿いの地域に移行するとしている。行政コストを下げながら上手に中心部に人を集めている。

高齢化によって自ら移動手段を持たない人が出てくるため、公共交通機関を中心とした土地利用も考えて行く必要がある。

【部会長】

富山市の取り組みは、ライトレールを活用した中心市街地への人の誘導で非常にユニークな取り組みである。

【委員】

富山市は道路の整備率が70数%に達し、もう十分だということで、道路の新設を止め、その予算を街づくりに振り向けている。

【部会長】

公共交通機関の充実という点も土地利用の上で重要な視点である。

【委員】

帯広は自然環境に恵まれた良いまちだと感じている。稲田下川西の宅地造成と利便施設の必要性もあるが、先程来の話のように周辺3町との宅地の価格差が大きいのであれば、価格差を小さくする施策が必要ではないか。

中心市街地の活性化では、駅から藤丸まで歩いて行くとき、ビジネスホテルと駐車場ばかりでは、魅力を感じられない。

観光客や郊外から人をあつめるためには、中心部にそれだけの魅力が必要になってくる。一方で、身近なところで用事がすませられる利便性に加え、中心市街地ではないと買えないとか、体験できないというようなものを考えてゆくことが重要だ。

全ての十勝の農産物や土産や物産が集まった、住んでいる人にも、観光客にも魅力的な大型の人が集まる施設が市の中心部に必要ではないか。

夜は、屋台村という十勝の魅力が集約された施設があるが、釧路市の和商市場のような昼のバージョンがない。

【委員】

人が集まって街が潤って行くと思うので、交通アクセスは重要だ。大きな乗り物は必要ない、待ち時間が少なく簡単に移動できるものが必要であり、観光客の移動手段としても重要だ。

【委員】

ガソリン価格がここまで高くなると、自動車を手放す高齢者が出てくる。その時公共交通機関の整備は重要になってくる。

【委員】

先程、富山市が道路新設を止めたという話があったが、農村部は道路整備が必要な場所がまだある。中心市街地の事も理解し、農村部の事情も理解してもらうことが必要だ。

【部会長】

先程から中心市街地の整備だけがコンパクトシティというような議論が進んでい

るが、帯広が昔から行っている、みどりと水に囲まれている田園と都市部が共存したうえで、中心街に人が集まるようにしているのが、本来のコンパクトシティの考え方であり、自然のストックを守りながら、中心市街地を活性化するのが帯広のコンパクトシティの考え方だと思う。そこを、しっかり理解する必要がある。

大型店舗は収益が優先で、地域の町並みがどうなるかが関係ないと思う。そういうものを規制できるようになってきたことは重要なことだ。

3町への流出ということを見ると、安価な宅地の供給は重要な対策になる。

以上